

〔4番 作野幸憲君 質問席〕

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野議員の質問時間は50分間です。

4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 議席番号4番作野幸憲でございます。

議長に許可をいただきましたので、一般質問を始めさせていただきたいと思ひます。

去る10月に行われました市議会議員選挙において2期目の当選をさせていただきました。2期目も、新しい政策提案をしっかりとしまひたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

今回、私は、安来市の情報化計画のあり方と今後の課題について質問をしたいと思ひます。

今回このテーマを取り上げましたのは、今までは個々の提案をいろいろとさせてもらいましたが、安来市では、本格的な全体を網羅した情報化計画についてほとんど公の場で議論がなされてきませんでした。情報化の取り組みといっても、住民情報にかかわるもの、市民サービスにかかわるもの、内部の事務、庁内のインフラ、将来設計など、いろいろなことを考慮して進めていかなければなりません。私が心配しているのは、新消防庁舎、給食センター、市民会館、新安来庁舎の建設など、大型プロジェクトが現在進行中ですが、これが平成29年度にはおおむね完成予定となっておりますが、その後のことが大変心配でなりません。

安来市の経常収支比率を見ても、平成23年度、24年度と、この比率が高くなっており、24年度決算では89.6%となっております、90%に迫ろうとしております。このことは、安来市財政が人件費や生活保護費、借金返済費など、必ず支出しなければならない経費の占める割合が高くなっていることを示し、自由に使えるお金が少なくなっていることをあらわします。先般、12月3日の議員懇談会での中期財政計画の説明では、平成30年度に向けては、この経常収支比率が年々さらに高くなっていくという説明でございました。説明では、基金を取り崩して対応していくので心配ないというような趣旨のご説明でございましたが、やはりそうは言われても、心配になってまいります。

私は、この情報化の部分を今からしっかり見直し、検討すれば、経費削減によって将来自由に使えるお金が少しでも多く確保できる可能性が高いと考えております。

そこで、まず皆さん方には、しっかりとこの情報化の現状を把握していただきたいと思ひますので、最初に情報化の現状について質問をさせていただきます。

まず最初に、予算に占める情報化の金額と割合を、庁舎関係、病院、学校の区分で、それぞれ合併後の年平均でお答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 失礼いたします。

私のほうからの、安来市の施設いろいろ多岐にわたっておりますので、一括して答弁をさせていただきます。

平成16年度合併以降の予算に占めます情報化経費の割合と金額につきましては、先ほどおっしゃいました庁舎関係、それから学校、消防を合わせた電子計算事務費の割合が、経常的な情

報化経費に限りますと、一般会計に対しまして0.61%から1.06%、平均で0.8%、金額といたしましては、平均年1億8,432万円余りで推移いたしております。

別に、市立病院につきましては、予算に占める経常経費の割合が0.41%から5.85%、上がっております。これは、平成21年当時に電子カルテシステムを導入をしております、その経費を含めておりますが、平均で1.25%、金額としましては、平均4,841万円です。

学校につきましては、教育費予算に占める情報化費用の割合で、0.27%から3.19%、平均で0.92%、金額としては平均2,009万円です。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今、お聞きしますと、全体では年間平均で約2億5,000万円ぐらいかかっているということでございます。

次に、同様な区分で、パソコンの台数と方針計画、それとイントラネットにつながっている台数を教えてください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 庁舎関係、消防、水道関係を合わせたものにつきましては、現在547台を配置しております、このほかにも交流センターに49台、保育所及び幼稚園に77台接地しております。イントラネットへは、これらのパソコンのほとんど全てを接続しております。

更新についてでございますが、平成22年度までの間は、年間平均36台程度更新しております。ただ、基幹ソフトでございますウィンドウズXP、これは来年4月にサポート切れになりますので、これに合わせて、平成23年度から本年度にかけて、新しい基幹ソフトを使ったものを合わせて576台購入し、順次更新を行っております。

ほかに、市立病院でございますが、計264台、そのうちの7台を市のイントラネットに接続しております。更新につきましては、医療制度の改正に伴う新システムの導入等のため、今年度においてパソコンを40台、また先ほど申しましたウィンドウズXPのサポート切れに伴いまして、インターネットに接続する23台を更新する予定としております。

学校につきましては、合計884台で、そのうち401台を市のイントラネットに接続しております。更新につきましては、平成21年度に校務用パソコンを333台購入しております。合わせて、ウィンドウズXPのサポート切れに伴いまして、目下校務用のパソコンの基幹ソフトをウィンドウズ7に変更する作業を行っております。また、教育用パソコンについても、同様の理由により更新を計画しておるところでございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ありがとうございます。

次も、同様な区分でサーバーの台数と更新計画をお答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 続きまして、サーバーでございますが、市につきまし

ては、イントラネット、あるいは基幹業務系のものを現在計24台設置をいたしております。

更新につきましては、基幹業務系システムについては、平成29年度、地域イントラネットサーバーにつきましては、導入の年次が若干違ったものがございまして、平成27年度と平成29年度にそれぞれ分けて予定をしております。マイナンバー制度の導入等、国の大規模な制度改正も予定されておりますので、これらの影響により、サーバーの台数が増加する可能性もあるというように考えております。

ほかに、市立病院につきましては、24台を設置しておりまして、更新につきましては、今年度2台を更新しております。

今後は、電子カルテシステム等、基幹システムの更新にあわせて実施する予定としております。

学校につきましては、教育用に15台設置しておりまして、先ほど申しあげました教育用パソコンと同様の時期に更新を計画したいと思っております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ そうしますと、次にプリンターや複合機、ルーター、蓄電池などの周辺機器の台数と更新計画もお願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 周辺機器の設置状況でございます。

まず、印刷について申し上げますと、庁舎関係、消防、水道では、原則として経費削減を図る目的で、コピー、ファクス、スキャナーが一体となった複合機を原則使用することとしておりまして、現在29台稼働しております。そのほかに、特殊な用紙を用いる証明書等の発行のために91台のネットワークプリンターを補助的に使用いたしております。複合機につきましては、今年度5年間のリース契約によって更新を既に行っております。プリンターにつきましては、各課の業務に合わせて個別に調達しておりますので、全市的な更新計画というのは予定はいたしておりません。

それから、ネットワーク機器につきましては、市のイントラネット全体で308台のスイッチと言われる機器を設置しております。これは、庁舎等の施設整備の改修の際や職員配置に合わせて更新を行うこととしております。

それから、蓄電池、いわゆる無停電電源装置につきましては、サーバー室にそれぞれ24台設置しております。更新は、接続しておりますサーバーの更新に合わせて同時に行う予定としております。

また、市立病院につきましては、プリンターが89台、複合機が6台ありますが、今年度新システム導入等により、プリンター29台を更新し、複合機も6台の更新と合わせまして1台補充をし、合計7台となっております。ネットワーク機器につきましては、先ほど申しあげましたスイッチ、これが31台、それから無停電電源装置につきましては、サーバー室に10台設置をいたしております。

学校につきましては、教育用、校務用、事務用、合わせましてプリンター81台が稼働してお

ります。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ それでは、続いて、システムの更新、導入の予定はどのようになっているか、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ お答えいたします。

既にありますシステムの更新につきましては、まず市につきまして、先ほどサーバーの更新計画で説明いたしておりますが、ほかに新規のものとしたしまして、去る9月議会の折にご説明をいたしましたプログラム言語Rubyを活用した緊急情報送信システムを今年度に新たに導入する予定でございます。

それから、市立病院でございますが、今年度会計制度改正に対応するために、財務システムを更新しております。また、電子カルテの一部の部門システムを島根県医療情報ネットワーク、通称まめネットに接続するための目的で、今後改修を行う予定としております。

学校につきましては、教育用パソコンの更新に合わせ検討したいというふうを考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ それでは、最後にメンテナンス料と回線使用料を、合併後の年平均と増減がどのように推移しているか、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ まず、メンテナンス料でございます。

庁舎関係、消防、水道におきまして、予算で申し上げますと、2款の電子計算事務費、この中に委託料がございます。これが一般的に該当するものというふうに思っておりますが、この一般会計予算に占める電子計算事務費の委託料の割合でございます。0.34%から0.82%、年平均で0.5%、金額といたしましては、年平均1億1,814万円で推移いたしております。

ほかに、市立病院につきましては、予算全体に占める電算保守料の割合が、年0.18%から0.55%、平均で0.35%、金額といたしましては、年平均1,268万円で推移しております。

学校につきましては、システムや機器の大半をリース契約によって調達しておりまして、メンテナンス料に該当する部分の抽出が困難ございまして、正確な金額は把握しておりません。

それから、続きまして、回線使用料でございますが、市のイントラネット全体を対象として、一般会計予算に占める割合が0.11%から0.14%、年平均で0.13%、金額といたしましては、平均2,915万円で推移しております。

市立病院につきましては、0.03%から0.07%、平均で0.06%、金額といたしましては、平均204万円で推移いたしております。

最後、学校につきましては、平成20年度までは全てイントラネットを利用しておりましたが、平成21年度から教育用の一部で他にプロバイダー契約しているものがございまして、この

教育費予算に占める割合でございますが、0.012%から0.021%、平均で0.018%、金額としましては、平均41万円で推移しております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ いろいろとありがとうございました。

メンテナンス料についても1億3,000万円ぐらい年平均でかかっているということを今承知させていただきましたが、このように、ここまでの前段の部分は、情報化にかかわる機器がこれだけたくさんあって、例えばパソコンだけとって、1,800台を超えるものがあり、その上に、先ほども申し上げましたように、維持をするためのメンテナンス料や回線使用料など、多くのものがあるわけです。

今回は聞きませんでしたでしたが、電気料金の相当部分も情報化による使用になっていると私は思っております。

これから、実は本題に入ろうと思います。

ことし、10月16日、総務省が公表した新たな電子自治体推進のための情報化調査速報値によりますと、ここでは、情報システム関係予算ということになっておりますが、全市区町村の総額は、ここ3年の平均で年間約1兆円、その内訳は、イニシャルコストと言われる整備または更改、更新時経費が約30%から40%、ランニングコストと言われる保守運用経費が60%から70%と発表されております。

今回の安来市の内訳比率は、正確には聞きませんでしたでしたが、およそ同様のことと思っておりますので、今後保守運用経費をいかに少なくしていくかも将来に向けて非常に重要になってくると思っております。

そこで、これから情報化計画のあり方について具体的に質問をさせていただきます。

先ほどの総務省の情報化調査の速報値によりますと、電子自治体推進に関する何らかの計画、つまり情報化計画を策定しているかの問いに全国市区町村1,742団体中733団体が策定しているという数字が出てきております。皆さんご存じではないと思いますが、実は安来市もブロードバンドインフラ整備事業を行うときに、計画期間平成21年度から10年間の情報化計画が策定してあります。しかし、策定はしてありますが、内容は不十分な部分も多く、内部でも余り知られておらず、当然健康増進計画、健康やすぎ21を初めとする多くの計画とは違って、市民にはオープンにされておられません。

そこで、お尋ねしたいと思います。

私は、今ある情報化計画を新しい情報化計画にすぐにでも策定し直し、市民にオープンして、安来市の将来の情報化の考え方、つまり情報発信や公開の考え方など、またICT教育の進め方なども市民に知らせるべきだと思っておりますが、いかがお考えでしょうか、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 先ほど、議員のほうからご指摘がありましたとおり、本市の地域情報化……。失礼いたしました。ちょっと風邪を引いておまして、言語不明瞭で

申しわけございません。

先ほど議員ご指摘がございましたとおり、安来市地域情報計画、平成21年度に策定をしております。いろんなご指摘ございましたが、内容的には……。済ません、失礼しました。

内容的には、どちらかと言いますと、ハード部門、情報通信基盤整備を推し進めることを主な目的とした計画になっております。策定しました平成21年当初でございますが、計画期間10年間でございます。計画内の一定期間でローリングをする考えは、当時は持っておりませんでした。議員ご指摘のとおり、クラウドの推進を初め、情報通信技術、あるいは国の情報施策というのが大変目まぐるしい勢いで変わっていく中にありましては、常にアンテナを広げ、情報収集を行いながら、柔軟に対応する必要があると認識いたしております。例えば、先ほど申し上げましたシステムの更新、あるいは新安来庁舎の建設などの時期を捉えまして、円滑な業務推進が図られるよう見直しを図ってまいりたいというように考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 例えばという注釈が入ってございましたが、新しい計画を新庁舎建設までぐらいのところで作られるというような趣旨でございましたので、私は策定をし直されるのであれば、多方面の有識者の意見なども取り入れられて、ICT時代の流れにおくれないう、1年ごとにでも見直しができるような柔軟な形での策定をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 先ほどちょっと申し上げましたですが、いろんなタイミングもあろうかと思っておりまして、内容も含めて、適切な時期に改めてまた見直しを図ってまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ そうしますと、積極的にはやらないということですか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 当然、ICT関連の技術目まぐるしく進歩しております。おくれないうに、積極的に対応してまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 新田市長職務代理者。

▼○市長職務代理者（新田典利君）▽ 情報化の分野というのは、技術革新も非常に目まぐるしい分野でありますし、その上で生活に密着しておりますので、計画という形で作ったものを1年ごとに全面改定というのはなかなか難しいと思います。ですから、先ほど次長申しましたが、日進月歩のそういう革新の進む中で、それこそ情報を絶えず前向きに取り入れて、部分的にいろいろとローリングをするところがあれば、それは柔軟にそれこそ対応していくという姿勢で臨む必要があるというふうに思っています。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 私は、全面的に直せとは言っておりませんので、今あるものが不

十分だから、それを見直してくださいということでございますので、現在実際にあるわけですから、それをしっかりと見直していただいて、先ほど副市長言われたように、時代の流れにおくれないようにアンテナを張って、しっかりと計画を見直していただきたいと思います。

そうしますと、見直された時点で、先ほども私の質問の中で言いましたが、今まではいろいろの考え方とか、そういうものは市民には公開されておりませんでした。公開されるお気持ちはございますか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 当然、策定したものでございますので、原則としては公開が前提になる。当時、ホームページには公開しておりませんでした。一応は、策定をしておりますので、内容確認の上で、公開の方向で検討させていただきたいと思います。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 非常に歯切れが悪いですが、早い時期に公開をしていただきたいと思います。

私は、今後しっかりとした本格的な情報化計画がなければ、国から情報関係の予算をとってくるときにも、これがしっかりしていないと、予算とかはとってくることは、私は現状これからも難しいと思っておりますので、そういうことも含めて、早期に策定を見直していただきたいと思います。

それと、私は、あわせてとても大事なことは、人材の育成という部分です。ICT、ITと言われる部門は、非常に今専門性が高くなってきておりまして、専門知識を持った方を育成していくということは、これからの自治体では避けては通れないことだと思っておりますが、これについてのお考えはいかがでございますか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 人材の育成ということでございますが、当然今後の情報化政策を進める上で、情報化時代に対応できるエキスパートを常に確保していくのは、行政運営上必要不可欠であると認識いたしております。引き続き、市職員のレベルアップあるいは育成に努めるとともに、さまざまな角度から検討してまいりたいと考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ いろいろな部分で検討をしていくということでございますが、通告書にはちょっと載せておりませんでした。私は、これからは職員採用時にも、技術者の一つとしてIT関連の技術者を採っていくということも、将来的には必要じゃないかと思っております。他の自治体では、そういうことを実際にやっておられるところもありますが、新田市長職務代理人、代行者かな、どのようにお考えでございますか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 新田市長職務代理人。

▼○市長職務代理人（新田典利君）▽ 職員採用ということでございますけれども、一連の市としてのこういうITの導入、運用の形態にもよると思いますが、通常であれば、いわゆるバックアップ体制で、一般企業の方がメンテも含めて、いろいろなところでサポートしてくださ

るというなんが一般的なもんだというふうに思っております。

そういった現実的な動きも含めて当然あるわけでございまして、市の職員として、それだけのための技術者を採用するかというのは、今後の課題であろうというふうに思います。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ありがとうございます。

とにかく、そういう部分も含めて、しっかり検討をしていただきたいと思います。

見直しをされるということを前提で、これからちょっと話を進めていきたいと思いますが、私は、情報化計画も当然安来市の総合計画や行政改革大綱に沿ったものでないといけないと思っております。策定期間が新しい総合計画と行政改革大綱、迫っておりますので、ここではどのような位置づけを考えておられますか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ まず、総合計画のほうでございます。

ご承知のように、5本柱から成っております、その中に定住環境の整備促進という項目がございます。その中で、地域情報化の促進という項目を立てておりまして、そちらのほうで位置づけを行っております。非常に重要な課題でございまして、総合計画の下位計画として、ご指摘のございました情報化計画でございます。これに基づいて事業を推進してまいるという予定にしております。

それから、新行政改革大綱の策定の際にも、当然整合性がとれるよう対応してまいりたいというように考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ それでは、次の項目に移りたいと思います。

行政改革と情報化について質問をさせていただきたいと思います。

先ほども申しあげましたように、第2次行政改革大綱も平成26年度が最終年になっております。来年度には新しい大綱に向けて準備が始まると思いますが、そこでちょっとお尋ねしてみたいと思います。

第1次、第2次大綱の期間中に、情報化の推進によって得られた行革の実績というものは、どのようなものがございましたでしょうか、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 数値化については、ちょっとなかなか難しい部分がございますけども、一例で申し上げますと、交流センター、あるいは学校等を含めた市の組織間でのグループウェアを導入いたしております。これによって、事務の迅速化あるいは効率化を図ってまいったところでございます。

それから、各課で個別に管理をしておりましたプリンターあるいはファクスについても、先ほど申しあげました、ネットワーク接続方式の複合機を一括購入し、コストの縮減、事務の効率化を図ってきております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。



▼○4番（作野幸憲君）▽ 私は、以前から情報通信技術、つまりICT分野で行革に関する提案をさせていただいてきました。自治体クラウドやペーパーレス会議などがそれに当たると思っておりますが、これらの検討状況はどのようになっておりますでしょうか。

それと、特に12月3日の山陰中央新報に記事が掲載されておまして、島根県自治体クラウド見送りという、これは記事でございました。何か新しい情報があればお聞かせいただきたいと思えます。

また、今後の行革に向けた取り組みの中では、情報化における省エネ対策なども私は考えていってもらわないといけないと思っておりますが、どのようにお考えでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ 初めに、自治体クラウドについてでございます。

ご指摘ございました、おとついの山陰中央新報のほうに記事がございましたですが、今の経緯で申し上げますと、島根県市町村総合事務組合が中心となって、安来市を含みます県内19市町村が参加の詳細検討ワーキンググループによって検討を進めてまいっておりました。システム更新を間近に控えた自治体で先行的に行う方向で調整が行われておりましたが、クラウド化の対象が全てではございませんで、例えば住民記録や税などの一部基幹系のシステムに限られておって、既存システムとの併用が必要である。それによって、経費の削減効果がなかなか見込めないということになりまして、結果的に賛同自治体が極めて少なく、あの新聞の報道にございましたとおり、現状では継続検討ということになりました。しかしながら、今後も情報共有を続けていく方向が示されておりますので、市としましても、県下の状況を見ながら、今後のシステム改修に合わせて検討してまいりたいというふうに考えております。

それから、続きまして、ペーパーレス会議につきましてですが、既に複数のシステムについて関係課合同でシステムのデモを見ながら検討を行っているところでございます。引き続き、情報収集を行ってまいりたいと思っております。

それから、情報化における省エネルギーについてでございます。

機器ごとの消費電力の低減は、機器の進歩によって図られておりますが、今後もサーバー類の更新の際に、仮想化あるいは集積化といったソフト面の技術により、台数の削減を図る、あるいは周辺機器等の配置を見直すなどで、システムトータルの総体として、さらなる省エネに向けて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 自治体クラウドについては、必ずこれを導入しないといけないという考えは私もございませんので、経費削減とか、もろもろを検討していただいて、いいシステムを採用していただきたいと思っております。

次に、教育現場における情報化について質問をさせていただきたいと思えます。

私は、十数年前から県や安来市の教育委員会の非常勤講師として教育現場の情報化をずっと見てまいりました。近年は、年に1度か2度しか現場に入っておりませんで、たくさんの現場を

見ているわけではございませんが、私が感じるのは、安来市の教育現場における情報化は、ここ10年間ぐらいほとんど進んでいないというのが私の実感でございます。

そこで、お尋ねしたいと思います。

I C T教育の現状をどのようにお考えになっているのか、お答えください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 太田教育次長。

▼○教育次長（太田健司君）▽ I C T教育の現状ということでございます。

I C T教育とは、授業におけるI C T活用、すなわち情報通信技術の活用ということでございます。児童・生徒がI C Tを活用して学習する場合と教員がI C Tを活用して指導する場合がございます。いずれの場合にいたしましても、I C Tの活用の目的は、学習指導要領に示されている教科等の目的の達成の手段の一つであると認識しております。

現在、安来市内の各学校でI C Tを活用した授業等を児童・生徒の発達段階に応じて行っております。しかしながら、どの学校も一様に進んでいる状況はないというふうに認識しております。

以上でございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 各学校には、メディア担当とかI C T担当の先生がおられますが、この配置については、特に条件などを設けて決めておられるんですか、どうでしょうか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 太田教育次長。

▼○教育次長（太田健司君）▽ I C T担当教諭につきましては、議員ご指摘のとおり、さまざまな呼称がございますが、担当者は、公務分掌により位置づけられております。計画的に校内研修も行っております。

配置については、各学校の経営方針に沿って、しかるべき教員が担当するよう校長が決定しております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 私は、先ほど教育現場の情報化が進んでいないと申し上げました。これを一番顕著にあらわしているのが、小・中学校のホームページだと私は思っております。ホームページの作成状況と更新の仕方はどのようになっていますでしょうか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 太田教育次長。

▼○教育次長（太田健司君）▽ 現在、小学校で11校、中学校で2校の学校がホームページを公開しております。

学校のホームページの更新については、各学校で校長等に許諾権限を与えて、それぞれ更新手続を行っております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 22校中9校がホームページを開設していないと。これは、ほとんど10年前と変わってないんです。これを見ても、学校教育でいかに情報化が進んでいないかというのがわかると思います。

ICT教育では、マニュアルなどを制作しておられますか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 太田教育次長。

▼○教育次長（太田健司君）▽ ICT教育に関するマニュアル、議員ご指摘のマニュアルというのは、取扱説明書なり手引書の意味だと思うんですけども、そうしたものはございません。しかしながら、ICT教育については、各学校の学校経営方針に沿って教育活動に取り入れております。

以上でございます。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ そういうものはないということですが、情報化教育していくときに、私は文字入力や文章の作成やネットのマナーなどの基本的な部分はしっかりと教えていただきたいと思っておりますが、教育委員会として、これはいつごろまでにちゃんと教えるというお考えでございますか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 太田教育次長。

▼○教育次長（太田健司君）▽ ICT教育の基本ということですが、作野議員の質問の趣旨からいいますと、児童・生徒の学習の面からの情報活用能力ということになるかと思えます。これは、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度という観点で育成する必要があります。小学校、中学校のそれぞれの発達段階に応じて、この3つの観点をバランスよく育成することが大切で、いつまでということではなく、ここまでの段階という観点で情報活用能力の育成を行っております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 学校教育で一番大事になってくるのが、先生の技術、指導力の向上だと私は思っております。以前には、これと同じような質問をしたときに、しっかりやるよというようなお話をいただいたんですが、今までと同じようなことでは、私は先生の指導力、技術力の向上にはつながらないと思っておりますが、今後これに対しての取り組みはどのようにお考えでございますか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 太田教育次長。

▼○教育次長（太田健司君）▽ 教職員のICT活用の技術、指導力の向上についてでございます。

これは、小・中学校のメディア教育担当者が中心になり、校内研修等で研修を進めております。また、島根県教育センターで実施されるICT教育に係る研修への参加について、積極的に行うよう指導しております。今後、安来市教育委員会が主体となる研修を行うなど、全ての学校のICT教育の体制づくりと技量の底上げを図ってまいりたいと考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 答弁をいただきましたが、先般ことしの9月に文科省が発表した平成24年度学校における教育の情報化に関する調査結果の中で、教員のICT活用指導力というのがあります。これは、24年度に小・中・高の先生方がどれぐらい研修を受けたかという数

値でございますが、都道府県別なんです、全国平均が28.2%、島根県は18%、先進県である佐賀県は98.2%、これだけの差が研修一つとってもあるわけです。これは、県の政策でもあると思いますが、教育委員会が本気になっていただければ、それだけレベルアップにつながるということには私はなると思っておりますので、そこらあたりもしっかりと検討いただきたいと思っております。

国では、安倍政権も成長戦略の中でICTの活用等についてもしっかりと予算をつけていくという方向性にもなっておりますし、先ほど申し上げた佐賀県なんかでは、1人に1台情報端末、パソコンかタブレットを配布するというふうな時代にもなっておりますので、そういう中で安来市はなかなか10年間進んでいないという、私は実態なのかなと思っております。市内の格差はもとより、全国的な格差も広がらないように、しっかりとやっていただきたいと思っております。

次に、防災対策を初めとする住民サービス向上のための施策について質問いたします。

防災対策については、9月定例会で緊急情報送信システムについてお尋ねしましたので特に質問はいたしません、4月の運用開始時には、課題を克服されて、しっかりとやっていただきたいと思っております。

そこで、ICTの利活用は、経費削減はもとより、将来の住民サービスの維持向上や事務の効率化、マンパワーの補填的役割に私は大きな期待を持っております。スマートフォンやタブレットと言われるスマートデバイスやSNSの普及、公共無線LANの拡大など、今やICT技術は、医療や農業を初め、多くのさまざまな分野で利活用されており、先般では、公共施設の長寿化対策にも、国はICT技術を積極的に使っていくという方向性も打ち出されております。

そこでお聞きしたいんですが、安来市は、今後ICTを活用した将来に向けた住民サービス維持向上の施策をどのように考えておられますでしょうか、お聞かせください。

▼○議長（金山満輝君）▽ 木村政策企画部次長。

▼○政策企画部次長（木村慎治君）▽ まず、スマートフォンでございます。

当然、今普及が著しいところでございまして、他の自治体でも、スマートフォンを使ったアプリケーション、いろいろと導入例がございます。安来市といたしましても、関係課と連携して、情報収集に努めてまいりたいというふうに考えております。

それから、公衆無線LANにつきましても、フィルタリングなどの技術的な課題、費用対効果等ございます。いろんな面から引き続き検討してまいりたいと思っております。

そのほかにもいろんな新しい技術が今出ております。そういったものは、当然事務の効率化に結びつくようなものが数多く考えられますので、今後とも情報収集に努めて、具体的な事業化も視野に検討してまいりたいというふうに考えております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 4番作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 先ほども答弁の中にあつたと思いますが、これから将来に向けて課題もたくさん山積していると思っております。それに迅速に対応していただきたいと思っております。

最後に、時間もなくなりましたので、私は、この情報化の部分というのは、安来市の今では心臓部だと思っております。パソコンにウイルスが入ってふぐあいが出るとか、プリンターの更新でふぐあいが出て、印刷ができなくなるとか、そういうのはまだいいんですが、システムがダウンして、業務がとまってしまったりとか、私はそういうことはあってはならないと思っております。これは、新田副市長に最後にお聞きしたいと思いますが、そういうことも含めて、将来しっかりとした予算確保を……。

▼○議長（金山満輝君）▽ 作野議員、時間ですので、まとめてください。

▼○4番（作野幸憲君）▽ お願いしたいと思っておりますが、いかがお考えでございましょうか。

▼○議長（金山満輝君）▽ 新田市長職務代理人。

▼○市長職務代理人（新田典利君）▽ こういった分野が、行政のスリム化あるいは効率化に大きく貢献するであろうということは、私も認識をしております。ただ、先ほど議員おっしゃったような安定的な運用も含めて、やはり整備、運用には相当なコストがかかってくるというものであらうと思っておりますので、他のプロジェクト同様、市の財政状況も含めて、いろいろと勘案していかなければならないという認識でおりますが、いずれにしましても、予算編成、来年度に限らずですが、そういう予算編成過程を通じて考えていくことであらうというふうに思っております。

▼○議長（金山満輝君）▽ 以上で4番作野幸憲議員の質問を終わります。

（4番作野幸憲君「ありがとうございました」と呼ぶ）